

地域が求める医療・科学の進歩に沿った 医療をおこなえる病院でありたい

院長 西俣 寛人

日本は未曾有の国難の中にある。戦後の日本の発展を支えてきた色々な制度が行き詰まり、大胆な改革を行わなければ日本はこのまま衰退していく。

医療界も改革が遅れている。高齢化社会になり医療費・介護費が増加し、医療技術の進歩で高額医療費が急速に膨らんで、国民医療費の伸びを大きく上回っている。

又、科学の進歩により医療も変化し、評価の高い治療を受けるために患者の大移動が起こっている。国民皆保険制度の中で医療費の多くを国費に頼っている現状では、自主的に積極的に医療改革をおこなっていく必要があるであろう。

地域医療再生の名で、地域の医療機関が機能別に分別され、行政主導による医療機関の選択と集中がおこなわれようとしている。

今、南風病院に地域社会が何を求めているのか、どのような医療が信頼されているのかを判断して、早急に南風病院が進むべき道を決定し、全職員で同じ道を進むべきである。

南風病院は「なすべきことは見えている」改革に挑む勇気と気概が必要である。昨年までは全体の改革に取り組む気概に欠け、南風病院に停滞感が漂っていた。しかし、昨年9月以降、救急患者の減少が続き、病院全体に危機感が広がった。最初に行動を起こしたのは、事務方であった。事務方の若手が各診療科と話し合いをし、病院全体で救急を受け入れる体制を作った。それに呼応して、医局長を中心に全医局員が、看護部長を中心に看護部が行動を起こしてくれた。その結果、3ヵ月後に種々の案件がV字回復した。済生会横浜東部病院の正木副院長の御指導で、職員の宿泊研修が行われ、そこで議論されたことが実行に移され、病院の空気は一変した。多くの職員が目覚め、未知の世界に大きく踏み出す勇気と行動力を得たようである。

また行政が望んでいる、地域全体で切れ目なく必要な医療が提供される「地域完結型医療」を推進するために、本年度より療養通所介護事業所みなみ風を開設し、医療者と患者・家族との協働を目指す医療を行っていく予定である。南風病院は今後、医療界が大きく変化していく時代に、地域の求める医療、我々に出来る医療は何かを注意深く探りながら、運営方針を決めていく必要がある。また、科学の進歩に沿った医療を提供できる病院でありたいと願っている。

Nanpuh Hospital